

「食と健康について」のシンポジウムの開催

【支援金確定額：175,000円 支援率：26.28%】

取材日：平成23年（2011年）10月15日

■どのような活動をされていますか？

船橋地域における福祉・介護・医療サービスの充実のため、そのシステムの再構築が必要です。そのため、現場を支える医師、看護師、介護福祉士等の専門職の枠組みを超え、また、サービスを受ける側の意思が反映されるよう、地域住民を含めた新たな連携関係を構築しています。専門職がそれぞれ仕事を通じて得た知識と経験、その資源を有効に活用する手立て、システムを創出し、継続的に運用していくことを目指しています。

設立は、平成21年12月、現在の会員は45人です。現在、本機構の理念を実現するため、講演会・シンポジウムの開催、そして、連携を行うためのシステム作りを行っています。

■支援金をどのように活用されますか？

「食」について、高齢者と乳幼児のQOL（生活の質）の向上に役立つ市民公開シンポジウムの開催に活用します。

具体的には、高齢者及びその家族等を対象にした「アンチエイジングにおける食の役割、そして、病気を治す医療から病気にかからない生活習慣への取り組み」、乳幼児の家族等を対象にした「食物アレルギーの現状とその解消に向けた提案」について、それぞれのテーマに関し、現状と問題点を抽出し、それぞれの日常生活の「食」の在り方等の改善方法の指導、助言を行います。また、乳幼児向けでは、お菓子作りのレシピや実演を盛り込んだDVD映像を紹介する等、健やかな成長を願っての企画です。

■今後の活動の抱負を教えてください。

平成23年度は22年度に引き続き、「食」を通じたシンポジウムを行い、福祉・介護・医療においてさほど重きを置かれていなかった局面にスポットをあてて、市民の皆さまからある程度評価を頂いたと感じています。今後も「食」をテーマにしたシンポジウムを継続していく予定です。平成24年度については、認知症についての市民の関心が非常に高く、また開催の要望も多いため、公募型支援事業としては認知症に関する講演会を2回開催することが決まっております（現時点では日程は未定）。またその他、市の支援事業以外では平成24年8月31日（金）～9月2日（日）に日本在宅ホスピス協会と当機構の共催で、全国大会を船橋で開催することが決定しております。この大会は作家の柳田邦男先生他をお招きして一般市民向けの公開講座も行いますので、多くの市民の方に参加していただきたいと思っております。

当機構は会員の会費で運営されておりますが、会員数が未だ少なく、シンポジウム等の開催にあたっては寄付金や賛助金を募って賄っているのが現状です。関心のある市民の皆様にはぜひ入会していただき、一緒に活動していくことを切に願っております。

～取材を終えて～

「食とアンチエイジング ～長寿と食生活～」の市民公開シンポジウムに参加。会場はJR船橋駅至近の船橋グランドホテル。入場無料、予約不要。パネリストは特養ホームの管理栄養士、歯科医院長、老人クラブ連合会事務局長。市民が気軽に参加出来る企画です。会場の雰囲気も、「市民側に立った福祉・介護・医療サービスを提供したい」と機構を設立された方々の思いが、滲み出ていました。現場の最新の研究結果の発表と質疑応答で構成されたシンポジウムは、誠に充実していました。私自身、個々に適った食事と運動、口腔管理、見た目も大切、心意気等の話は、日頃の生活に反映、多くの参加者もそれぞれ得るところ大であったと思います。市民に向けて、このような情報発信をされる機構が、船橋市内にあることに頼もしさを覚えました。



歯科医師や管理栄養士など専門家がパネリストとして参加